

【教育目標「知性」「品格」「至誠」「体力」を身につけた活力ある生徒 【重点目標目標を持ち、最後までやり通すことができる

9月27日(日)は「中秋の名月(十五夜)」でした。保護者の皆様のご家庭では「お月見」をなされたでしょうか。「中秋の名月(十五夜)」の由来や意味は諸説ありますが次のようです。

「中秋」は、旧暦8月15日のことを意味します。現代歴に当てはめると、大体9月中旬～10月初旬がその時期になります。「十五夜」は、月の満ち欠けする周期で、満月を表す言葉です。月の約半分にあたる15日が満月になると考えられていました。そこで、「名月」＝「満月」という言葉と合わせて「中秋の名月(十五夜)」＝「旧暦8月15日の夜を照らす満月」と言われるようになりました。

毎年「中秋の名月」は同じ日ではありませんし、月と地球の公転軌道の関係で「中秋の名月」は必ずしも満月とはなりません。ちなみに今年は28日(月)が満月です。

「お月見」は、中国で古くから十五夜に「望月(月を眺める催し)」という行事があり、日本へは平安時代に遣唐使により伝えられ広がったのではないかとされています。当初の「お月見」は庶民には全く習慣がなく、貴族たちが「月」を眺めながら宴を楽しむという、鑑賞する意味合いが強かったようです。現代のように一般的になったのは、江戸時代ですが、江戸時代前期はお供えする習慣はまだなく、収穫した芋煮を食べながらお月見をしていたようです。江戸時代後期になると収穫に感謝しお供えしてお月見をするようになったようです。昔からの習慣で「中秋の名月」のほかに日本には、旧暦9月13日に「十三夜」といって「お月見」をする習慣があります。

「十三夜」の頃には大豆、枝豆、栗などが食べ頃になることから、「豆名月」「栗名月」とも言われ、収穫物をお供えして「お月見」をする風習です。

「十三夜」は「十五夜」に次いで美しい月が見られるため、この二つの「お月見」をしないことは「片見月」と呼び、縁起が悪いこととされていたほどです。



今年の「十三夜」は10月25日(日)です。日頃からいただく多くの食べ物に感謝しながら「中秋の名月」と合わせて一年で一番・二番に美しく見える「月」を暫し眺め楽しむ習慣も大切にしたいものです。

□第59回相馬地方PTA研究大会原町大会

9月12日(土)原町生涯学習センターにおいて開催されました。席上、本校PTA会長 渡邊 友行 さんが平成26年度相馬地方PTA連絡協議会長として子どもたちの健全育成や相馬地方PTA活動の振興発展に寄与した功績により感謝状を受賞されました。

また、受賞者を代表して、「今後も子どもたちの健全育成のために微力ながら尽力していきたいと思えます。」とあいさつされました。事例発表後、「子どものやる気と自信を引き出す子育て心理学」を題に子育て心理学カウンセラー 東 ちひろ 氏の講演がありました。概要は次のとおりです。参考にしてください。



受賞者代表挨拶をする渡邊P会長

子どものやる気を引き出すためには、子どもの自己肯定感(自己評価)を高めることが重要です。そのためには、「聴く」「誉める・認める」「触れる」ことをとおして子どもの「ココロ貯金」を貯めることです。貯まるとやる気がUpし、表情も穏やか、笑顔が多くなります。焦げ付くとやる気がDownするとともに子どもの口癖も「どうせ」、「やっぱり」が多くなり「気になる行動」が増えてきます。また、子どもは、愛情(プラスのふれあい)が得られない時には、叱られたり叩かれたりするマイナスのふれあいでも“ないよりはいい”と思い、「わざと怒られる行動」をします。子どもはママから「プラスのふれあい」を常に求めています。貰えるまで諦めません。

子どもが伸びる話の聴き方

- ◇うなずき・相づち ◇アイメッセージ(「お母さんは～」) ◇8対2の法則(子どもが話す8割、親が話す2割)
- ◇オウム返し(「疲れた」→「本当に疲れたよね」「嫌だ」→「それは嫌だったよね」)
- <どの子も認める(存在を認める、できてもできなくても聴く)ことができる方法>
- ◇目に見えたこと、ちょっとした変化を言う ◇「名前」+「あいさつ」